

式 辞

柔らかな光を浴びて、やつやく桜のつぼみが、らべりみ始め、春の訪れを肌で感じる季節となりました。

今日の「」の良や口に、翼南小学校を卒業されたる 六十三名の 卒業生の皆さん、小学校「」卒業 おめでとうござります。

今日は、本校の 第五十三回 卒業証書授与式、皆さんの 開始の日です。皆さんの卒業を祝うために、多くの方々が お越し下さいました。

「」来賓の皆様方におかれましては、公私何かと 「」多用にもかかわりませず、早朝より 「」臨席を賜り、卒業生の門出に 花を添えていただき、ありがとうございます。高い所からでは「」ございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん一人一人に 小学校の教育課程を 全て修了した証である卒業証書を、今 お渡ししました。大きな声で返事をし、決意を述べ、胸を張つて卒業証書を受け取る姿を、大変誇りしく感じました。

私は、皆さんの小学校入学から 六年間を一緒に過ごしてきました。入学式の日、まだ小さかった皆さんが、田を輝かせ 少し不安な面持ちで 田の前に座つていきました。大きなランドセルを背負い 少し高く感じたであろう階段を一步一步上つていきましたね。あの日から 六年間、一生懸命に学校生活を頑張つてきましたね。私は、皆さんから多くの感動をもらいました。

皆さんには、同じ学年の仲間として、個性の違いはあっても お互いを思いやる「」とのじめる 素晴らしい学年集団でした。

一年生の終わりに、新型コロナが猛威を振るい、学校休業になりました。それ以降 いろいろなことが制限され、生活様式が一変しました。

困難な状況を経験したことが、皆さんを強くしました。今後 何が起ひつゝと、あきらめず 気丈に立ち向かい、乗り越えていく力を、皆さんには身につきました。

五年生の林間学習で、皆さんが一気に大人になつたように、感じました。

そして、最高学年となつた皆さんの活躍には、田を見張るものがありました。カッコいい、頼りになれる、お兄さんお姉さんとして、下級生に「優しさ」と心遣いを持つて接してくれました。一年生が安心して学校生活が送れたのは皆さんのおかげです。下級生にとって、本当に頼りになる六年生でした。縦割り班活動、集団登校、クラブ活動、委員会活動など、あらゆるところリーダーとしての存在感を見せてくれました。

五月の卒業遠足では、興味深く、いくつもの職業を体験していた姿が印象に残っています。

運動会では、暑い中練習を頑張り、本番では、心を一つにした、素晴らしい演技・競技を披露し、見事な、学年の絆を見せてくれました。

秋の修学旅行では、スペイン村や鳥羽水族館など、訪れた先々で見せる皆さんの楽しそうな表情や、はじけた笑顔の数々が、今も鮮やかに思い出されます。皆さんの笑顔、素敵でした。

三学期になると、「卒業」の二文字が、田ごとに大きくなつてしましました。祝う会では、在校生が、皆さんに感謝の思いを歌と言葉で伝えてくれました。六年生の背中を、五年生はずっと見てきました。その五年生が、皆さんからバトンをしっかりと受け継ぎ、巽南小学校の新しいリーダーとして頑張ってくれるので、どうか安心して貰いたい。五年生の皆さん、頼みましたよ。

さて、卒業生の門出に際し、皆さんへ次の二つの言葉を贈りたいと思います。

一つは「和顔愛語」です。

三学期に、皆さんへ行つた特別授業の時に、この言葉を書いた色紙を一人一人に渡しました。大切な存在である、あなたたちへの私の願いです。

「和顔」とは、優しい笑顔のこと、「愛語」とは、相手を思つやうの言葉のこと

です。

「これから的人生で、望むことや願うことは、その達成は、簡単なことではないかも知れません。時として、報われないことがあるかもしれません。つらいことや悲しいこともあります。でも、夢や希望を持つことを決して諦めず、どんな時でも、柔らかな表情と笑顔、思いやりのある言葉を忘れず、周りの人たちを大切にし、自分を愛し続ける人のために、あつてほしいと思います。

やさしく柔軟な態度と言葉で、相手のために動くには、どうすればいいのか自分に問い合わせるのも必要です。不機嫌は、周りに伝染し空氣を悪くします。そんな時、優しく声をかけられ、微笑みをもらつと、人は愛情を感じ、気持ちが和みます。「和顔愛語」を、心がけた人生を、送つてほしいと思います。

一日は、「希望・努力・感謝」です。

一日一日は、「一度と戻る」とのない、かけがえのない日々です。その一日を「毎日」すか、すべては心の持ちようです。

「希望に起き、努力に生き、感謝に眠る」という言葉があります。私もこの一年、いつも心にかけてきた言葉です。一説には、古代ローマ時代のマルクス・アウレリウス・アントニヌスの哲学書の中の「朝起きた時、自分が目的を持つことと確信し、一日を勤勉に過ごし、夜は、自分が努力をし、誰かのために力を尽くした」と感謝して、眠るべきである」の内容がもとになつたと言わっています。

「今日」という一日の始まり、よき日にしようと、希望を持つてください。幕末の教育者、吉田松陰は、「夢なきものに成功なし」と語っています。よき一日、よき人生を送るには、夢と希望が源となり、夢と希望が知恵や行動を生み、やがて成功につながっていきます。

希望に起き、昼は勉強やすべきことに全力で取り組むことで一生懸命に生き、夜は一日の無事を感謝の気持ちで終える。感謝は幸福感につながり、明日もまた希望を抱いて、一日を始めることができます。

「希望に起き 努力に生き 感謝に歌う」の三つの言葉を 送りてほしいと思します。

「和顔愛語」

「希望・努力・感謝」の三つの言葉を はなむけとします。
さて、保護者の皆様、お子様の「卒業」おじいさんお母さんお父さんです。これからも、深い愛情ふりかえれば、この六年間の中でも、うまくかなかつたことや、言葉では言い尽くせない様々な苦労もあつたのではないかと思いますが、今、お子様が、このように立派に成長され、卒業証書を手にする姿に、感動もひとしおのことと存じます。

お子様にとって、最大の支えは保護者の皆さまです。これからも、深い愛情で、お子様の成長を見守りますよう、お願いいたします。
この六年間、本校の教育活動に多大なる支援ご協力をいただきました」と改めて感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、名残りは尽きませんが、お別れの時が近づいてきました。

皆さんが「この日を迎える」とができたのは、多くの人たちの支えがあったからです。たくさんの祝福を受けたことは、とても幸せなことです。

皆さんを生んで育ってくれたご家族の方は、皆さんが甘えたり、時に反抗しても、大きな愛情で包んでくれましたね。そしていつも皆さんの味方になり、支えてくれました。いつも感謝してもしきれません。ありがとうございます。「感謝」を伝えてください。

地域の方々も、暑い日も雨の日も、皆さんの安全を見守つてくれました。目に見えないとひびで、皆さんを支えてくれた沢山の人たちがいます。その人たちへの感謝を忘れないで下さい。

いよいよ 小学校生活に別れを告げる時、新たな旅立ちの時です。

当たり前のようにある日々のすべてのことが、当たり前ではなく、ありがたいことだと、心に刻んでください。

皆さんとの 出会いや思い出は、私にとってもかけがえのない宝物です。

結びになりますが、卒業生皆さん、今の 幸せを噛みしめ 四月からの中学校生活、新たな出会いを大切に、大きく羽ばたいてください。

六十三名全員が 今後も活躍し、幸せな人生を歩んでくれることを 心からお祈りしまして 式辞 といたします。

令和七年 三月 十八日

大阪市立翼南小学校長 谷野智史